

上板橋第一中学校の改築基本設計の策定について【説明資料】

「いたばし魅力ある学校づくりプラン」前期計画第2期対象校である上板橋第一中学校については昭和36年に建築されており、前期計画第2期計画のなかで施設の老朽化への対応や校地面積、児童・生徒数推計などを基に検討が行われた結果、改築として整備を進めていくこととなった。

整備事業を進める上での基本的な考え方や指針を示した基本構想・基本計画を令和4年7月に策定し、その後、委託事業者の協力を受け、設計を進めていた。この度、基本設計図書をまとめたので報告する。

1 設計コンセプト

～基本設計図書 P.2～

1 地域の核となる学校の顔づくり

●桜並木の背景と端正な校舎

石神井川と環状七号線、東武東上線に隣接する立地であることから、地域の顔となるような形状や外装が端正な校舎を創出



●線路沿いの防犯性を考慮した、人気（ひとけ）の漏れ出す校舎表情

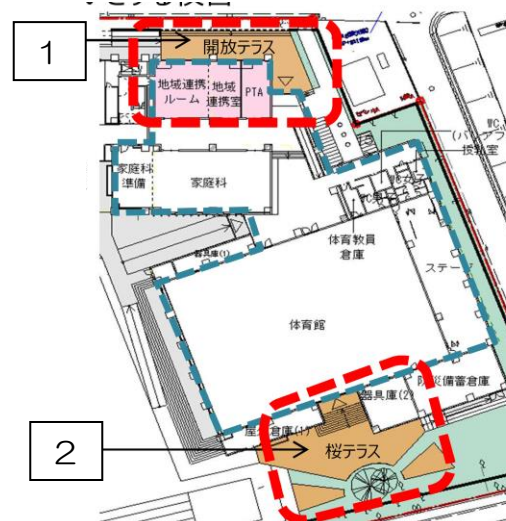
東武東上線と体育館との道路に人気（ひとけ）がないことから、地域からの要望により、防犯性を考慮した校舎の外装や照明配置を計画

2 地域と連携する学校

●地域活動を街のにぎわいとする校舎

① 環状七号線側の「開放テラス」と「地域連携ルーム」「地域連携室」「PTA室」を隣接させ、地域が災害時に活用できるように配置

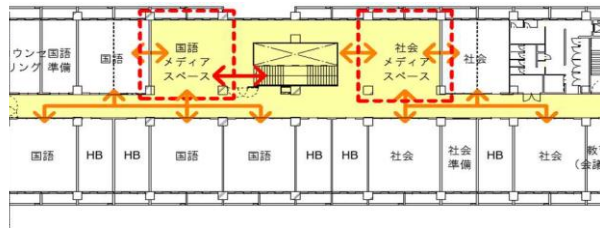
② 石神井川沿いの桜を楽しむ「桜テラス」を配置



3 教科センター方式を深化させる校舎

●階段移動中に自然に接する教科メディアセンタースペース

日常的に教科の情報に触れることができるように、生徒の日常動線となる階段付近に教科メディアスペースを配置



●学びの中心となるメディアセンター

本棚スペースと学習スペース（PC室）を一体化したメディアセンターを計画し、調べ学習等に対応できるようなスペースを計画
また、2階の中央階段近くに配置し、3階からもアクセスできるようにすることで、下校時に立ち寄りやすく、授業以外でも生徒が利用しやすい親しみのある図書空間を創出



(吹き抜けのある明るい空間)

4 活動を発信するデジタルサイネージ

●移動中に目に入るデジタルサイネージの設置

教科センター方式の時間割や部活動の情報、学校活動の風景等を表示
ディスプレイは、生徒の移動中に目に入りやすいように1階の昇降口と2～4階の各階廊下に設置

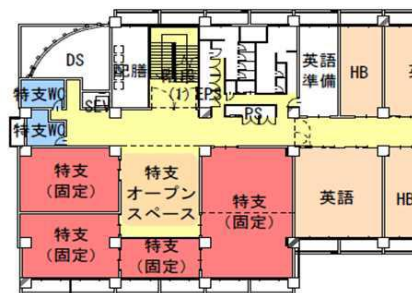
1階の昇降口に設置するディスプレイには学校を地域へアピールできる情報を表示



5 インクルーシブやジェンダーに配慮した学校

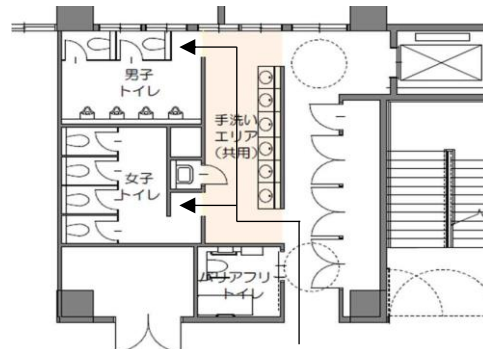
●特別支援学級と通常学級が同じフロアで学ぶ校舎

インクルーシブの視点から、特別支援学級を2階に配置し、特別支援学級の生徒が通常学級の生徒とともに学ぶ空間を創出



●オールジェンダーに配慮したトイレ

廊下から直接、男女別のトイレやバリアフリートイレに入るのではなく、男女共同の手洗いエリアを介して各トイレに入出入りすることでジェンダーに配慮したトイレを計画



6 環境性能を高めた校舎

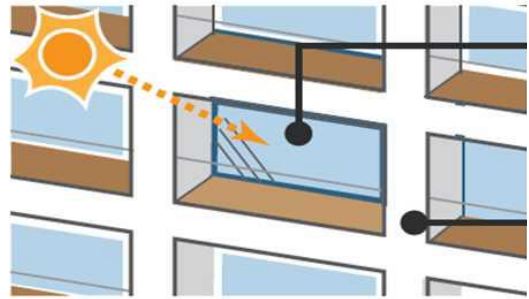
- 生徒が快適に過ごせる、断熱性や遮熱性を高めた校舎

校舎内への日射を削減するため、開口部にLOW-E複層ガラス、建築構造にアウトフレーム・バルコニーを採用

- 設備の高効率化で消費エネルギーを削減
全熱交換器(※)やLED照明等の高効率設備を採用し、建物の省エネルギー化を実施

※排気時に捨ててしまう室内の熱を回収して、給気してきた空気に戻す設備。換気による温度変化を抑えることにより、エアコンの負荷の軽減につながる。

- 従来の建物で必要なエネルギーを40%削減する、ZEB Oriented以上の実現



2 建築計画概要

～基本設計図書 P.5、6～

1) 計画規模

名称	校舎	体育館	屋外倉庫棟	合計
高さ	22.0m	12.1m	3.5m	/
階数	5	1	平屋	
耐火性能	耐火構造			
構造種別	鉄筋コンクリート造	柱・壁：鉄筋コンクリート造 屋根：鉄骨造	鉄筋コンクリート造	
基礎	既成コンクリート造		地盤改良	
敷地面積	12,447.19 m ²			
建築面積	2,652.09 m ²	1,182.56 m ²	47.60 m ²	3882.25 m ²
建ぺい率	31.2%			
床面積	9,340.76 m ²	1,231.09 m ²	47.60 m ²	10619.45 m ²
容積率	83.2%			

※今後の検討等により、数値に変更が生じる可能性があります。

2) 配置計画の考え方

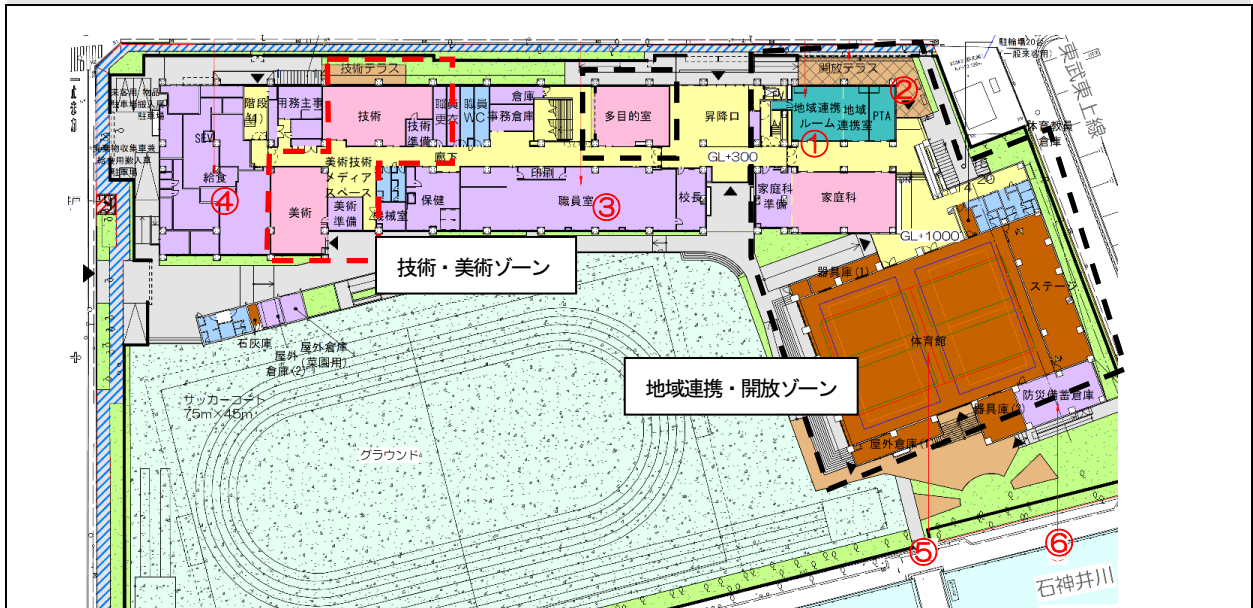
- 正門は既存と同じ北側に配置し、地域用の門についても北側に配置
- 車両動線を西側に計画し、生徒の動線と歩車分離を図ることで安全性に配慮
- 敷地西側は自主管理歩道を整備し、安全な歩行空間を確保
- 門を設置する敷地北側は、道路からセットバックを行い安全な通学路を整備
- 南側と南西側にも避難用管理扉を設置



平面計画の考え方

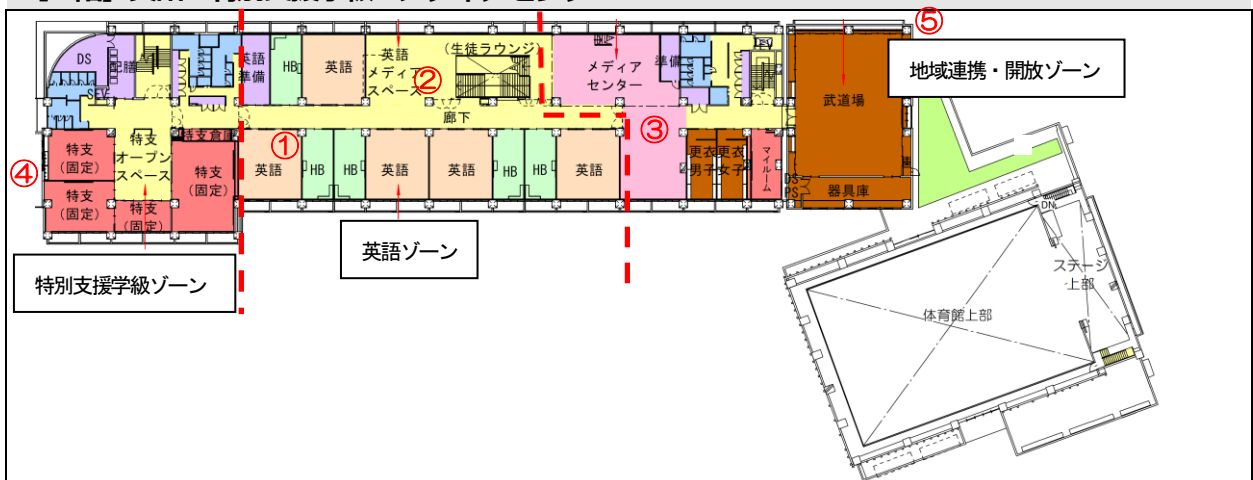
フレキシビリティに配慮し、教科センター方式の特色を活かした平面計画

【1階】昇降口、職員室、体育館、家庭科室、技術室、美術室、給食室、地域連携諸室



- ①【地域開放諸室】 東側にまとめ、生徒と地域開放との動線を分離
- ②【地域開放テラス】 環状七号線沿いに配置し、地域拠点とする
- ③【職員室】 グラウンドに面し、昇降口にも近接
- ④【給食室】 西側に配置し、搬入動線に配慮
- ⑤【体育館】 地域開放や災害時の避難所を想定
- ⑥【備蓄倉庫】 搬入経路も確保しつつ、災害時を想定して体育館を隣接

【2階】英語・特別支援学級・メディアセンター



- ①【教科教室、HB】 英語教室5、HB5
- ②【メディアスペース】 教科との一体利用や、生徒の居場所として活用
- ③【メディアセンター】 校舎の中心とし、大階段に面して配置
- ④【特別支援学級（固定）】 中央にオープンスペースを配置、インクルーシブ教育に配慮し、通常学級と同フロアへ
- ⑤【武道場】 東武東上線側に配置することで、近隣への騒音に配慮

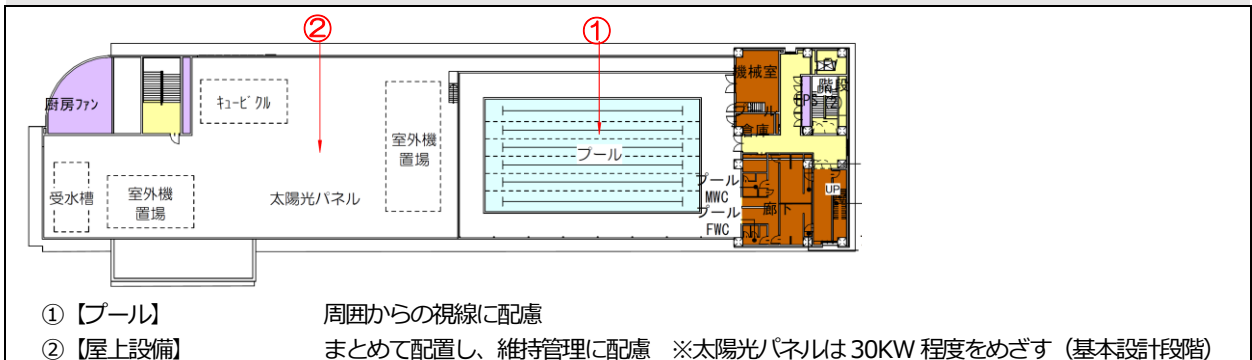
【3階】 数学・理科



【4階】 国語・社会、音楽室、特別支援教室



【5階】 プール



立面計画の考え方

【校舎部分】

- 柱・梁・壁を活用することで効率的に日射削減するファサード
- 校舎南北面は単調で、長大な壁とならないよう、半コマごとに壁を設置して分節化、再生木や緑のカーテンにより周辺環境に調和した計画
- 規模の大きい体育館や武道場は、校舎部分と壁面を分節することにより近隣への圧迫感を低減した計画

【体育館部分】

- 開口部やリブのある壁面等、意匠を変えることでボリューム感を低減し、周辺環境に調和した計画
- 東側道路の防犯性に配慮し、ステージ側に開口部を計画
- 石神井川沿いが景観形成重点地区であることから、色彩は桜並木の緑や石神井川の水の色彩と調和した落ち着いた落ち着きのある計画

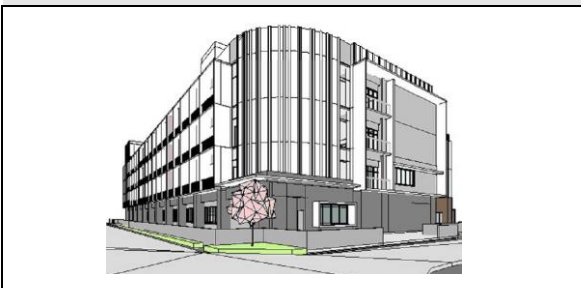
校舎・北側立面（環状七号線側）



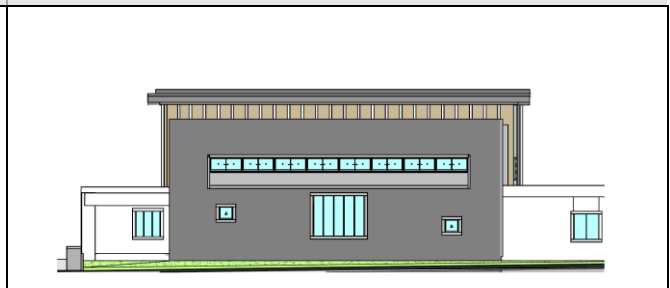
校舎・南側立面（グラウンド側）



校舎・西側立面（環状七号線側）



体育館・南側立面（東武東上線側）



年度	R5	R6	R7	R8	R9
解体工事	着工				工事完了
建設工事				引越	新校舎利用
工事中 学校運営	現校舎 引越		上板橋第二中学校 旧校舎利用		